

リハビリテーション

防災への備え①



て社会人として自立した。

「生産性」という私には悲しい言葉を時々耳にするが、私はヘルパーの支援を受けてきた。私の給料より多く税金を使っている。しかし、私は子供たちに働く姿勢を見せてきた。曲がりなりにも生きる姿を見せてきたと思う。できないことは助けてもらい、また私ならではの看護師の資格を活かして、障害のある当事者の体験も活かし仕事をしている。仕事のために地方から東京に転居してきたからは、いろいろな国のヘルパーが支援してくれた。おかげで子供たちが世界観に触れ、視野も広がったと感ずる。私は2年前まで、地域包括支援センターで看護師として働いていた。高齢者の総合相談の看護師である。がんの末期、一人暮らし、認知症、孤独・うつなど。色々な相談がある。背景もそれぞれ。しかし、いつも思うのがいくつになってもどんな状況でも役割があり、楽

しみがあることだと思う。絶望・諦めから希望が見えるのは、やはりその方の生きてこられた人生に寄り添うこと。その方の役割を諦めないための工夫や、心を動かすことを一緒に考えることが大切だと思つて仕事をしてきた。

バリアフリーナース®

そして平成29年4月、小さな団体を立ち上げた。子供・障害者・高齢者・外国人の誰もが助け合つてつながり合つて暮らす、やさしいまちを作るための団体「Smile Again」である。医療と介護と地域をつなぐため、命と暮らしを支えるための心ある人材育成をしたい。小中学校でも子供たちの車椅子体験学習に協力して、体験談を伝え、子供たちの心に呼びかけている。助け合う心と勇気を伝えている。子供たちのキラキラする目と、今日から勇気を出しますと言う声を聞き、私

はまだまだ社会に役に立てる存在でいたいと思う今日この頃。そして同時に困つたら助けてと言つてよい社会も大切だと加える。

医療だけでは救われない心と生活の部分、一足先に体は不自由になつた私から、誰もが高齢になり不自由になるのだから、不自由でも暮らすことのできる社会に微力でも役立ちたい。また私の先輩（同じ障害のある）たちが、高齢になつても加齢による病気と共に、認知症と共に、不自由と共に、暮らし続けられている姿がまた師でもある。誰もがいつまでも大切な存在である。看護師の視点からいうと、介護予防とか認知症予防という予防だけでなく、必要な介護を受けながら、認知症があつても人権が守られ、その人らしさが保てるための循環社会を思う。

（一般社団法人Smile Again代表理事

バリアフリーナース®）